

木育プログラム開発と場作り

—身近だった道具から学ぶ—

森と木のクリエイター科 木工専攻 児玉 直樹

1. 研究背景と目的

私は本校の学生でもあり板取地区の地域おこし協力隊としても活動をしている。自然が豊かで素敵な所だが過疎化が進んでいる。

祖父母が住んでいた田舎も同様で、不便な暮らしをしていた。しかし、道具を用いて自分で物を作り、傷んだら直す生活を行っていた。そして道具を大切に扱っていた。子供達は、周囲の大人と接する中でその様な生活文化を学び、私自身も長期休暇に田舎へ行き祖父母との暮らしの中で体験し、知恵を享受することができた。

現代では自ら物を作るより購入する方が時間的にもコスト的に安く抑えられる事が多い為、物に溢れがちだ。大変便利だが、道具を使って何かを作り直す文化や意識が失われつつあるのではないだろうか。本研究はものづくりや道具をキーワードに【道具から学ぶ】をコンセプトに木育プログラムを開発し、実践していきたいと考えた。

2. 研究の方法

身近な道具から学ぶ、木育プログラムを開発実践。道具を使用する技術習得と大切にすることの気づきを得てもらう。効果検証はワークショップ（以下、WS）を行い参加者・保護者・地域の方への聞き取りを実施。その内容を考察し評価とする。

3. 調査

昔の遊びで地域の方々が行っていた事を調査

調査は、今後のフィールドとなる板取で実施。

【1】先行調査：地域の方への聞き取り

実施日：6/1-6/24 人数：22人

地域：板取地区※61歳～80歳までの男女

質問内容：

① 子供の頃の遊びは？

上位4件は秘密基地作り 石器掘り 山遊び 魚釣り

*秘密基地づくり 山遊び 魚釣りは刃物を使う。

② 何か道具を使いましたか？

上位3件は肥後守/小刀、ノコギリ、縄

【興味深いエピソード】

① 昔は道具を見かねて使ったが、今は大人が道具を使っていない。

→道具に触れる機会がなく、触れる機会が必要

② 小刀は1番最初に使いこなす。生活道具の基本→小刀の重要性と自身の小刀の指導技術不足に気付く。

【2】基礎調査1：

あじさい祭りでのアンケート

実施日：6/28、29 人数：77人

調査方法：アンケート

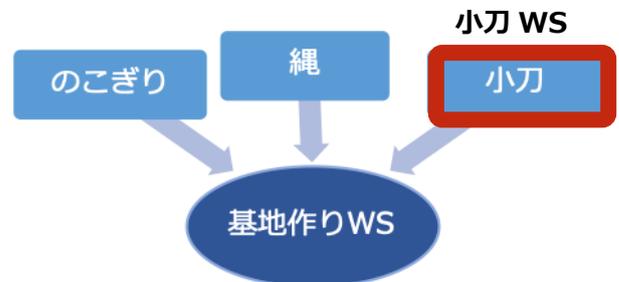
(結果)

思い出の遊び 1位 秘密基地作り 2位 魚釣り 3位 木登りとなり、先行調査と合わせて秘密基地作りをプログラム化することに決定。

アンケート内（身の回りの大人の道具）の回答の内、41.6%が刃物に関連。しかし、肥後守や小刀の回答がなかったので、質問をした所「子供の頃から使っていたので大人の道具ではない。」それだけ、小刀が身近な存在だったと考えられる。

4. 実施する木育プログラムまとめ

のこぎりは授業で指導法を学び、縄に詳しい地域の方に協力を取り付けた。小刀は未習得。指導技術の習得の為、小刀 WS 実施。その後、基地づくり WS を実施。その際地域の方が子供の頃に使っていた道具、小刀・のこぎり・縄をプログラム内で活用予定。



5. 実践

5-1. 実践(小刀を伝える技術習得)

実施する木育プログラムでの目的

- ・子供達が道具を安全に使う技術の習得
- ・子供達が道具を大切に扱う心の獲得
- ・小刀の指導技術の習得（スタッフ側）

【実践1】自然体験 in 板取

実施日：7/25 参加人数 29人 参加者層：小4～

WS 内容：小枝の鉛筆削り

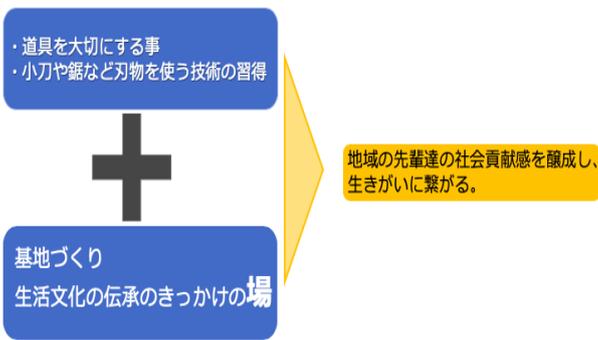
WS 詳細：枝を使用し鉛筆の芯を入れ小刀で削る。

【実践2】大矢田公民館

実施日 10/1 参加人数 30人 参加者層 小1～小4

WS 内容：小刀で鉛筆削り

【実践3】百年公園オータムフェスティバル



実施日 10/20 参加数 11 人

WS 内容：小枝の鉛筆削り

【振り返り】

実践1の自然体験 in 板取は高学年ばかりなので、刃物の取り扱いも大丈夫だろうと考えていたが扱いに不慣れな子が多く驚いた。そこで刃物離れが進んでいる事実を目の当たりにした。

そこで、実践2以降に活用出来るよう危機管理チェックリストを作成し、小刀を使う技術の習得に関し、確実に伝えられるように準備した。結果、誰一人怪我人を出さずWSを終えることが出来た。参加者から箸を作りたい、他の木も削ってみたいと言う感想があった。成果物としてWSの運営スキルと危機管理リストの完成を獲得した。

5-2. 実践（基地づくりWS）

【実践1】基地作りWS（基地づくりI）

場所：板取小学校横の畑 材料：コナラの枝

実施日 11/30 参加人数：3人

参加者層：小1～小6 WSの内容：基地作り

子供達にのこぎりの使い方とシュロ縄での縛り方だけしっかりと教え、自由にやらしてもらった。

（結果）

子供達が相談して小屋の骨組みを作成。脆弱であったが形になった事から子供達は満足げ。出来上がらないと思っていたとの事。次は長い時間をかけてやりたいと要望。サポートの大人も子供の質問に対して解決する能力がなかった為、SNSを使い地域の方からアドバイスをもらい次の基地づくりに活かす。

【実践2】基地作りWS（基地づくりII）

実施日 12/14.15 参加人数：3人 【ティピ内部】

参加者層：小1～小6

WSの内容：基地作り。子供達からティピを提案される。

（結果）

私が地域の方から直接教わり子供達に水をつけて縛ることやシュロ縄の結び方を教える。シュロ縄は前回の基地作りで使った物を解体し縄をつなげ再度活用していた。

ティピ型にする際に三角形の頂点で組み合わせる時にシュロ縄を上部で結ぶ時に濡らして使う事を教え小学生でもきつく締



【完成品】



める事が出来た。

【振り返り】

子供達の感想で、「道具を元の場所に戻さなかった時は次に使う時にどこにあるかわからず困った。」「紐をつなげて長く出来る事を知らなかった。」「軽い竹などで次はやってみたい。」など、新しい知恵や技術の習得をした事で、次に作るものに対しての意欲が出ていた。また、サポートする人の知識がない事も先輩達が答えを持っている事も多く、新たな学びの場になっていた。

6. 協力頂いた方からの感想の抜粋

Aさん（林業に従事）48歳

自分が知らない事を地域の先輩から教えてもらい伝えた事で自分も学ぶ事が出来た。

Bさん（キャンプ場オーナー）81歳

子供達に道具を使うきっかけを作るとどうなるかは面白い取り組み。

Cさん（一級造園技能士）67歳 ※SNSでの相談先
きつく結ぶ方法やシュロ縄の結び方を教えたがちゃんと出来ていた。

7. 評価

地域の方からの評価

- ・基地作りは生活文化を伝承するツールとして有効であり、子を持つ親の学び場にもなる。
- ・小刀は危機管理を含めたマニュアルが出来ていて良い。基地作りもガイドラインが必要。
- ・高齢者の皆さんが知っている事を伝える場を作る事で自己肯定感が高まり生き生きと過ごすことが出来る。

8. まとめ

小刀と基地作りの木育プログラムにより、ものを大切にする事や技術の習得は参加者の感想より得られた。場づくりについては、場は学びの場だけでなく、地域の先輩達からの生活文化の継承のきっかけの場となった。そして、地域や地域住民の活力になっていく可能性がある地域の方から感想を頂戴した。

板取事務所でのプレゼンの後、地域の方から「キャンプ場で、基地づくりをやってみてはどうだ」という有難いお話を頂いた。きっかけがない事に問題があるとすれば、私がきっかけをつくって行きたい。私は、地域おこし協力隊として、価値ある暮らしの文化が残り5人の家族と移り住んだこの板取で、本研究を継続していきたいと思えます。基地づくりWSは季節の良い春に、学校に話をしてみようと考えている。